

射水市社会教育委員会議の概要について

生涯学習・スポーツ課 生涯学習係

1 会議

日 時：令和6年7月29日（月）午前10時00分～午前11時20分

場 所：射水市役所本庁舎会議室401

2 出席者

【委 員】 京角委員、長堀委員、稲垣委員、山田委員、石森委員、清水委員、松原委員、藤井委員、岡野委員
(委員10名中9名出席)

【事務局】 金谷教育長、星野事務局次長兼生涯学習・スポーツ課長、
稲田学校教育課主査、鳥本生涯学習・スポーツ課課長補佐兼スポーツ推進係長、
金三津文化財係長、石黒生涯学習係長、上田生涯学習係主任

3 会議概要

【報告事項】

- ・令和6年度コミュニティ・スクールについて

(内容)

令和6年7月現在までの取組状況について説明した。

- ・令和5年度社会教育主要事業の現況と成果等について

(内容)

社会教育の分野における14の主要事業について、令和5年度の取組状況、成果と課題を報告するとともに、今後の取組状況について説明した。

4 報告事項についての主な質疑・発言

(1) 令和6年度コミュニティ・スクールについて

〔委 員〕 自分は若者の就労支援にも携わっている。不登校や引きこもりの状態にあるご本人やご家族等、地域とかかわりを持ちにくい方もいるのではないかと。声を出しにくい方に対して、コミュニティ・スクールでこういったことができるのか伺いたい。

〔事務局〕 コミュニティ・スクールは今年度スタートしたばかりで、様々な活動が想定されるが、実際活動していただく地域や学校、コーディネーターや運営協議員の方々の協力なしでは実施できない。委員ご発言の内容が運営協議会で議題に上がることで、地域に応じたアイデアがでて、実際に何をどうすればいいかという議論になっていくことが一番良いと思われる。具体的に、このような子がいる、地域のこういった場に行けば活躍できるのではないかと、といったアイデアが様々な方から出て、それが繋がっていけばよいと感じている。

実際、不登校の生徒が14歳の挑戦には参加できることがある。活動を週1時間として、少

しずつ継続していき、その生徒が活動中に「ありがとう助かったよ」と言われる、といったことができないかという提案はさせていただいている。

〔委員〕 就労支援の際に、不登校で外出できない期間が短い方と接していると、変わっていく可能性をより感じる。コミュニティ・スクールが関わっていけるかわからないが、空白期間を作らず支援が繋がっていくような道を検討いただきたい。

〔委員〕 中学校には学校支援ボランティアの募集まで繋がってないところがある。中学校が学校支援ボランティアをどう集め形作っていくか具体的に想定できていないからではないか。中学校では、特に14歳の挑戦で教員の負担が大きいため、行事が終わる前に学校支援ボランティアを各学校に配置できるよう推進が必要と思われる。ボランティアの方が充実することによってコミュニティ・スクールの成果も大きくなる。今後の推進に関しての考え方をお聞きしたい。

〔事務局〕 学校支援ボランティアの募集は、学校でこんな支援が必要という要望からスタートしている状況。中学校では生徒自身で活動できることが多いため生徒に対しての支援をまだ必要と感じられにくい。逆に中学校では、地域に出て子どもが活躍できる場所があればいいととらえている。14歳の挑戦だけでも地域の方に協力を願えると大変助かる。今後、教員から声が上がってくると募集が広がっていくと思われるが、今年は14歳の挑戦を第一歩として、それを継続していく中で活動が盛り上がっていくことを期待し、慌てずにいきたいと考えている。

〔委員〕 14歳の挑戦は全中学校での行事のため、成果が上がれば全6校が足並みを揃えて形作られることになる。学校支援ボランティアが配置された12校の中でも活動等にばらつきがあると思う。全体的な情報共有と今後の方向性を指し示し、全体的なバランスも考えた支援をしていただきたい。

〔委員〕 個人的に小学校から頼まれて子どもたちに昔の遊びを教えたことがある。後日、子どもたちから招待があり、こんなに上手になりましたと見せてもらった。その後も、総合学習の時間に話をするなど、コーディネーターではなくても繋がりができた。地域で会ったときにもコミュニケーションができ、子どもたちに挨拶してもらって嬉しいというボランティアがいる。地域との繋がりとして、これが一番良いと感じる。また、地域の方が学校に来ることによって学校の大変さをわかってもらうためにも良いと感じている。組織にボランティアをお願いする良さもあると思うが、誰かが主体となって声をかけてくれるとうまくまとまるのかもしれない。

〔委員〕 小学校の先生と話し、学校ボランティアを募集していることを知り申込を行った。今回は、どのようにボランティアを募集しているのか伺いたい。たまたま学校を通じて4月に知らなければ申し込むこともなかった。申し込んだことを知り合いに話したが、知り合いも募集のことを知らなかった。

〔事務局〕 ボランティアの募集方法は、自治会での回覧板によるものが多い。中太閤山小学校は一番活動のスタートが早く、昨年の1月頃に募集をかけて、昨年の4月から活動を始めており、今年の1月頃に今年度の募集がされていると思われる。負担が少なく皆さんに伝わる方法として、自治会の回覧板による募集を勧めている。学校によっては、別途、保護者に対して募集しているところもあると思う。

〔委員〕 関心はあっても、声をかけてもらったほうが参加しやすいのではないか。小学校入学前や射水市に住むか検討している人等、様々な人に対し射水市が取り組んでいることがわかると良い。

ボランティアの募集や学校活動において地域による温度差はあるだろうか。

〔事務局〕 当初、2学期頃にボランティアの募集や活動の周知を図る予定だったが、やる気に溢れた方が多く4月から活動がスタートしている学校が複数ある状態。うれしい誤算ととらえている。8月広報で、改めて事業の説明とボランティアの募集について掲載するところである。

〔委員〕 人材を確保するためには、去年1回募集して終わりではなく、随時、広く周知されるとよいと思われる。

（2）児童健全育成事業について

〔委員〕 児童館について触れられていないが、こういった位置づけになっているのか。

〔事務局〕 児童館は子供たちの遊び場という位置づけとなっており、放課後の居場所である放課後児童クラブやさんさん広場と位置づけが異なる。

（3）社会教育活動について

〔委員〕 社会教育とは住民の主体的な参加が根底にあると考える。総合計画では、スポーツや生涯学習活動における基本理念において「地域での主体的な活動を支援」との記載がある。どのような位置づけで取り組まれているのか伺いたい。

〔事務局〕 昨年度からスタートした総合計画に基づき、今年度から第2期教育振興基本計画がスタートしており、この基本理念に基づいた様々な計画の目標に従って取り組んでいるところである。

〔委員〕 主体性を育むことは特に難しいと感じる。自主性と主体性の違いもある。自主性は育っていても、主体性がまだ育ち足りないような傾向にあるようなら、ぜひ主体性を伸ばすよう働きかけてほしい。

（4）放生津八幡宮祭の曳山・築山行事について

〔委員〕 ユネスコ無形文化遺産についてはどのように進んでいるのか伺いたい。

〔事務局〕 今年3月に日本から正式にユネスコに提案書が提出され、決定を待っている状態。今後、ユネスコの条約締約国会議の承認を得て、令和7年10月頃に登録の決定が来るのではないかと文化庁から聞いている。